

製品名: hDAPK1-T1316 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM86130**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:4000
分子量	160.0kDa

抗原情報

遺伝子名	hDAPK1-T1316
別名	Death-associated protein kinase 1, DAP kinase 1, 2.7.11.1, DAPK1, DAPK
遺伝子 ID	1612.0
SwissProt ID	P53355
免疫原	この抗体は、ヒトのアミノ酸間の KLH 結合合成ペプチドで免疫化されたマウスから生成されません。

背景

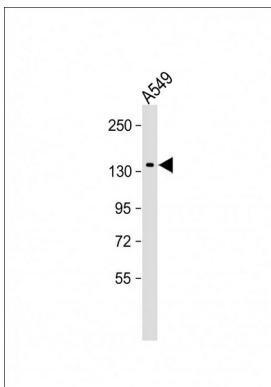
カルシウム/カルモジュリン依存性セリン/スレオニンキナーゼは、細胞生存、アポトーシス、オートファジーを誘導する複数の細胞シ

グナル伝達経路に関与しています。細胞の設定に応じて、タイプIアポトーシスとタイプIIオートファジーの両方の細胞死シグナルを制御します。前者はカスパーゼ依存性ですが、後者はカスパーゼ非依存性で、オートファジー小胞の蓄積が特徴です。PIN1をリン酸化して、その触媒活性、核局在、および細胞機能を阻害します。TPM1をリン酸化して、内皮細胞におけるストレスファイバー形成を促進します。STX1Aをリン酸化して、STXBP1への結合を大幅に減少させます。PRKD1をリン酸化して、酸化ストレス下でPRKD1に結合して活性化することにより、JNKシグナル伝達を制御します。BECN1をリン酸化して、BCL2およびBCL2L1との相互作用を減少させ、オートファジーの誘導を促進します。TSC2をリン酸化することで、TSC1-TSC2複合体を阻害し、成長因子依存性経路においてmTORC1の活性を刺激する。RPS6、MYL9、およびDAPK3をリン酸化。シナプス外部位におけるNMDA受容体のシグナル伝達増幅因子として作用し、脳卒中における脳損傷を媒介する。脳虚血はDAPK1をNMDA受容体複合体にリクルートし、GRINBのSer-1303をリン酸化することで、NMDA受容体チャネルを介した有害なCa(2+)流入を誘導し、不可逆的な神経細胞死を引き起こす。インターフェロンγ活性化時のRPL13Aのリン酸化にはDAPK3と共に必要であり、RPL13Aは転写選択的翻訳阻害に関与する。

研究分野

アポトーシス

画像データ



抗DAPK1抗体T1316 (1:4000希釈) + A549全細胞ライセート